

自著を語る

農業問題は農業だけでは語れない、政治や経済なども含めた社会のあり方として整理していくことが必要だという思いを強くしてきました。そこでこれまでのように産業としての「農業」中心ではなく、「農」にもっとこだわりの現場にかかわることによって、これまでに十分には表現しきれなかったものを、身近での活動経験と出合いなどを交えながら社会のあり方も含めて考えてみたのが本書です。

今、TPP（環太平洋

『農的社會をひらく』

連携協定)や“攻めの農業”、農協改革などで日本農業は危機に追い込まれつつありますが、農業にとどまらず産業界全体、社会全体が経済至上主義と過剰管理にさらされて限界状態に置かれています。生きにくさが募るばかりでなく、生命の根源的危機に追いやられていくといっても過言ではありません。

まさに工業原理の世界から生命原理の世界への転換が切実に求められて

蔦谷栄一

いますが、「農」は「農的社會デザイン能力」すなわち食料自給、自立、コミュニティ形成、教育、生きがい・働きがい、実感、文化形成などの、社會を變革していく能力を有していると考えています。

これを十全に發揮することによって農的社會の創造を訴えています。そのキーとなるのが消費者・市民の農業への参画、



国民皆農です。そしてここでは協同がきわめて重要な役割を果たすことを強調しています。

(農的社會デザイン研究所代表)

▷定価=1944円(税込み)▷発行所=創森社(〒162-0805 東京都新宿区矢来町96の4)